

Rotary

Yachiyo



Imagine
ロータリー

2022-23 年度国際ロータリーテーマ

「イマジン ロータリー」

2022-23 年度クラブテーマ

「ロータリーを学び、語り、

奉仕を実践していこう。“Think”」

週報 第2695回

2023年4月14日

八千代ロータリークラブ CLUB NO.15070

今回例会行事

テーマ：三方よしの経営

担当：国際奉仕委員会

卓話者：藤井大拙様

次回例会 4月21日

テーマ：2023からおきる建設業の問題

担当：米山奨学委員会

卓話者：谷田貝 彰会員

◆◆◆◆第2694例会◆◆◆◆

司会 中島貞好

「君が代」「奉仕の理想」

お客様

株式会社 Sake Business Laboratory

取締役副社長 鈴木更紗様

代表取締役 高橋睦樹様

成田ロータリークラブ

堀口路加様

八千代中央ロータリークラブ

小池康弘様

会長挨拶

会長 杉 昕

皆さん、こんにちは。

また夜が眠れなくなることが起きそうですね。公式の日本代表ということではWBCとは異なりますが、米国オーガスターで今朝早くから「マスタース」放送がありました。松山英樹の二年ぶりの優勝なるか注目されています。楽しみですね！もう一つのニュースとして、今年から小学校の教科書がデジタル化されるとのことです。今までタブレット端末を児童に持たせて授業をしていたようですが、今回は教科書にQRコードがついていてそこからアクセスして授業を受けることになります。ペーパーレス化でSDGsの一環にもなります。最近のITCの進歩が年々早くなってきてIT技術者もそのスピードについていくのに大変な世の中になってきています。皆さんもこれらの情報に注視してください。

前回の例会でお話しした「貞観政要」については後日改めてお話しします。

今月（4月）のかバナー月信で小倉ガバナ

ーは環境月間を母子の健康月間として話されています。環境についてのかバナー月信も近々話されると思いもいます。

さて、先月の月信3月号で小倉ガバナーは「楽しい例会・ためになる例会とは？」と各クラブに問い合わせていましたね。皆さんも読んで感じたことがあると思います。八千代クラブの例会の出席率は良く、他の模範となると思ってはおりますが、学ぶ心を持てば、参考になることがあることに気付くと思いますので小倉ガバナーの言われていることを素直に聞きましょう。小倉ガバナーの考えておられる「元気なクラブ」とは、
1. 明確な目標があり、それに向かって会員同士が協力し合って活動している
2. 会員間のコミュニケーションが取れていて風通しがよく、相互の交流が活発である
3. 例会が楽しく、充実していて、情報の受発信が行き届いている
ことであると言われています。

そして、親睦活動の基本は、何といっても楽しい例会・ためになる例会作りにある。ただ、多くのクラブ例会においてマンネリ化し、例会の行事をこなしているだけになってしまっているのでしょうか、とクラブに問い合わせています。もしもそうなら、クラブの現状を正しく把握し、どう改善すれば楽しい例会になるかを考えていくことが必要になります。クラブ会費・地区賦課金をおさめているのにもかかわらず例会を欠席し、地区的セミナーは面倒だと言って参加せず、会員研修も計画ばかりで実施しないで、いつロータリーを学ぶのでしょうか。親睦活動＝酒宴・ゴルフコンペだと思っていないでしょうか。会員同士が忌憚なく意見交換で

きる場所はあるのでしょうか。「例会は、親睦を育む場であり、学びを深める場であり、それらが一体で充実していればこそ栄養に満ちた土壤となり、ロータリーという苗木が立派に成長していく」(ガソ・ガソティーカー著『ロータリー通解(※1)』)ものです。

私は、地区内 82 クラブの公式訪問を終えて一番強く感じたのは、わずかのクラブを除いて多くのクラブの出席率が低くなっていることでした。と言つておられます。最後に、ロータリアンとしての三大義務(例会への出席義務、会費納入の義務、雑誌購読の義務)を了解して全ての会員はロータリーに入会したのではないでしょうか。例会こそがロータリーの親睦活動の基本であり、最も重視すべき事項です。今一度、ロータリーの奉仕の理念を実践するために、例会の意義を改めてクラブ会員全員が話し合い、検討する必要があると思います。と述べておられます。

皆さん、如何でしょうか。先ずは一人一人がこのことを考え、いつでも会長に問い合わせることを望みます。
『ロータリー通解(※1)』については次回お話しします。

幹事報告 幹事 中村賢治

- ・ハズキスタン洪水、シリアトルコ大地震への義捐金のお礼が届きました。皆さまのご協力ありがとうございました。
- ・4/10(月)12G ゴルフコンペ開催。参加者はスタート時間に遅れない様、ご注意下さい

お客様ご挨拶

成田ロータリークラブ 堀口路加様

緑が丘の事業所で行事がありましたので、メイクアップに参りました。小倉 G 年度が間もなく終了となり、次年度は鶴沢 G 年度となります。地区では DEI 推進委員会が立ち上ります。DEI とは「ダイバーシティ(多様性)」「エクイティ(公平性)」「インクルージョン(包括性)」の頭文字からなる、RI が打ち出しているクラブ活性化の為のひとつの指針です。館山 RC の水嶋陽子会員が委員長です。わたくしも委員として色々なクラブにお邪魔する事になると思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

委員会報告

親睦活動委員会 委員長 池田 建

親睦旅行は5/18~19 の日程で予定通り進めております。次回例会までに変更のある方はお申し出下さい。それ以降はキャンセル料が発生致します。

お祝い

本人誕生日:及川会員・花島会員
結婚記念日:上代会員
夫人誕生日:佐久間美代子様

例会行事

社会奉仕委員長

佐々木俊一

本日は Sake Business Laboratory 副社長の鈴木更紗様に、日本酒のお話をお願ひしております。おいしいお酒も出てきますので、よろしくお願ひします。

テーマ: 「Fermentation the culture!」

～日本酒と、人～

卓話者: 株式会社 Sake Business Laboratory
取締役副社長 鈴木更紗様



本日は短いお時間がになりますが、日本酒と人、というテーマでお話させて頂きます。話に沿ってお酒の試飲が3種類出て参ります。お車でお越しの方は、是非香りだけでもお楽しみ下さい。

酒を世界に繋ぐ、次代に繋ぐというテーマで、日本酒に限らず日本産の酒類に関してワクワクドキドキする事を、日本国内のみならず、世界中の人たちに繋げていく事で素晴らしいお酒の文化を次世代にも、未来にも繋いでいく事業を行っております。名刺にも WSET(Wine & Spirit Education Trust)とありますが、世界70か国以上で、お酒、ワインなどの教育を行っている機関の認定講師として活動しています。アルコール飲料というのは、発酵されて作られている物です。お味噌や醤油なども発酵されて生まれますが、その発酵に関わっている日本酒は、その周囲にとても色々なものがあります。日本酒は、工場で作られていて、蛇口をひねれば出来上がるというイメージを持たれています。方もいらっしゃるかもしれません、人だけでなく、目に見えない微生物、気候風土の影響を沢山うけて生まれています。日本酒は、1番の原材料となるのがお米です。お米は日本人の身体に合った栄養源であると思います。日本酒のボトルの

中の約80%はお水で出来ています。日本酒がなぜ、これだけ発展してきたかというと、例えばワインの産地であるヨーロッパや、アメリカの西海岸の降水量と比べて日本は3倍の降水量となります。それだけ雨量が多く、日本独特の地形から生まれた柔らかい水こそが日本酒の味わいや飲み口に寄与しています。そして麹がなければ日本酒はお酒になりません。古来、口嗜み酒(くちかみざけ)がありましたが、私たち人間がお米を食べた時、それがエネルギーに代わるのは、酵素が澱粉を分解してくれるからです。お酒造りの工程では国菌に指定されているキコウジカビという小さな微生物の力を借りて造られています。そしてアルコール発酵に欠かせないのは酵母です。これも微生物で、糖分を食べてアルコールを造ってくれます。また、原料だけでなく、日本酒に非常に重要なになってくるのは、杜氏さん(マスター・ブルワリー)技術者です。目に見えない麹菌や酵母を五感と、温度計や顕微鏡なども活用しながらお酒造りをする杜氏さんの技術力となります。日本酒は人なくしては作れないお酒です。ワインは、ぶどうを壺にいれて放置すれば自然にワインになります。そこに人が介在しなくとも出来るお酒ですが、日本酒に関しては人が介在しないとお酒になりません。

人にとってのお酒とは、五穀豊穣への感謝の気持ちが基にあります。雨の多い日本の環境において可能になったのが水耕稻作です。縄文時代末期から弥生時代にはこうした稻作文化が入ってきた事により、そこに村が出来、人が集まっています。昔の人たちはお米や、農作物を栽培する様になり、大地からもらったものととらえていました。大地からもらったものを食べ、来年ももっと沢山収穫があるようにという気持ちを込めて、ちょっといいものにして神様にお返しするという事が、地球にエネルギーを戻し循環すると考え始めました。その一つがお酒造りでした。収穫を祝って夏祭りや、秋祭りが生まれ、お神酒としてお酒を楽しみながら、お神酒で神様や、村の仲間と親睦をはかっていました。

お正月におとそを頂いたり、結婚式の際にお神酒を頂いたりしますが、お神酒を造るという考え方を持って生まれたお酒をご紹介します。島根県の出雲で造られているお酒です。出雲は神様の国で、こちらの酒蔵の杜氏さんを務めている方はもともと出雲の方ではなく、酒造りをするために来た方で、日本の酒造りのルーツを考えるに至った方です。現代のお神酒としてうまれた「齋香(さけ)」です。齋と言葉には清らかな、香と言う字に

は供え物と言うような意味があります。昔ながらの生酛(きもと)造りという伝統的な作り方をしています。日本酒らしい柔らかぬま味がありつつ、辛口でお食事の邪魔をしない清らかなお酒だと思います。収穫したお米の周りから取った糠も捨てる事なくは田んぼに戻し、一粒のお米の全体を100%循環させることに取り組んでいます。

江戸時代にはお酒を飲む文化が一般庶民にも広まりました。江戸の街で一番人気があったお酒が、二つ目の居酒屋が出来、今の東京と同じくらいの時代に件数があつたと言われています。この時は、世界中をおはみてもありません。そこで紹介する酒が、「黒松剣菱」の瑞祥です。剣菱は全国に流通していますが、年に1度だけ楽しまれてきたお殿様のお酒スタイルに近いもので、熟成からくるゴールドの色合いで。江戸時代、お酒は寝かされました。一番若くて5年で、8年、10年という原酒をブレンドして造られています。イメージ的にはコニャックのVSOPの様な感じです。江戸時代の文献にもお酒は寝かす程おいしくなると書かれています。江戸時代のように熟成したお酒を飲むことが出来たのは武士だけで、一般庶民は2倍3倍に薄めて飲んでいました。文献には大酒のみ大会について書かれていますが、水で薄めていたので、現在のビール位の度数に下がっていたと思われます。剣菱は会社の歴史が500年を超えていて、500年続いて来られたのは、お客様がいたからこそであり、流行を追いかける事なく、剣菱の味を守り続けるとしています。現代化できる部分もありますが、そうでない部分もいくつかあり、当時からの木製の道具を使っています。しかし、そういう道具をつくる職人も減った為、自分たちの酒蔵内に木工所を作り、数少ない職人を雇い入れ、またそこに興味をもった次世代の社員を弟子として繋いでいます。

日本でのお米の消費量が減って来ていて、農家さんが苦しい思いをしているというニュースをご覧になつた事があるかもしれません。お米作り、日本の田園風景を守る事に取り組んでいるのが福島県にある仁井田本家という300年続く酒蔵です。自分たちが300年酒造りが出来たのは美しい田んぼがあつたからとしています。全量無農薬、自然栽培米という形で、化学合成肥料や農薬を一切使わない酒造りを町全体に広げる取り組み

をしていいます。仁井田本家のお酒は全て無農薬のお米を使っています。豊な田んぼの中の生き物を守り、同時に子どもたちが安心して田んぼに入って遊ぶ事ができるようにしています。除草剤を撒く事が出来ませんので、原始的に田んぼの除草作業を行います。仁井田本家の田んぼに入ると、他の田んぼで感じた事がない位、足が沈みます。土が柔らかくふかふかです。土の中にも沢山の豊な微生物がいる事によって、柔らかい豊な土が守られている田んぼだと思います。金賓自然米と書かれていますが、自然米を作る取り組みは、先代が始め現在も続いている、美しい田んぼの風景を次世代にも繋いでいます。3番目のお酒は、仁井田本家の「穏(おだやか)」のうすにごり生酒です。日本酒は微生物を使っていますので、通常火入れという事を行い、安定化して市場に出しますが、このお酒は生ですので、火入れをしていないタンクから出て来たそのままのお酒の味わいとなっています。フレッシュな生酒は春ならではのお酒となります。微発泡でシュワシュワとして、春の食材にも相性のいいお酒だと思います。

今、食料需給率が下がっていると言われていますが、お米は日本で長く食べられて来た食材になりますので、未来の子供たち世代にも残していく事ができると思う田んぼの風景です。

お酒造りには、酵母や、国菌であるキコウジカビ、また乳酸菌も必要です。そういう見えない物を束ねる人、そしてお米や水を育む風土、それらが全部合わさって、グラスの中の1滴のしづくとなるのが日本酒です。

ある外資系の企業で講演した時に知った単語「Thrive」は、日本語に訳しにくいのですが、人が集まり、一人の思いがはじけて、他の人に繋がって伝播していくという感じの意味があります。それを聞いた時に、酵母や乳酸菌が酒造りの過程で爆ぜて、増殖し増えていく。その爆ぜるという日本語がThriveに近いと思いました。それぞれの役割を持った人たちが、個々は小さい存在でも、それぞれの役割をしっかりと行いつつ、思いが増えていく事で大きな力になっていくという

近隣クラブ例会日

火曜日	四街道R.C	例会場	四街道ゴルフクラブ
火曜日	八千代中央R.C		ヴィシュトンホテル・ユーカリ
水曜日	習志野R.C		習志野商工会議所会館
水曜日	佐倉中央R.C		第1ヴィシュトンホテル・ユーカリ第3夜間オルベート
木曜日	佐倉R.C		フランス料理 シエ・ムラ
木曜日	習志野中央R.C		習志野商工会議所会館

■クラブ広報委員会 委員長:田村隆治 副委員長:久土地 剛

■出席委員長 山浦恭宏※欠席の際は必ず火曜日迄に出席委員長に連絡して下さい

■例会日 金曜日 12:30~13:30 ■例会場 ハッソ・ノウ・イータ

事ではないかと感じています。今日のタイトル「Fermentation the culture」の culture は文化だけではなく、麹菌や酵母をシャーレに取ったものも culture と言ったりします。Culture は文化を持ったひとつの集団で、その思いを爆せて未来に繋いでいくという思いを込めたのが日本酒なのではないかと思っています。1日1杯日本酒を飲むと、未来の田んぼ1ヘクタールに繋がります。それくらい日本酒造りはお米を使うのです。是非、日本酒を飲む事を取り入れて頂ければと思います。

ニコニコ BOX~

¥ 15,000-

☆鈴木様卓話よろしくお願ひ致します
中村・佐々木・遠藤・風間・飯生・江頭
君塚・上代・宮野

☆政策置去りで失う野党の信:八木秀継麗澤大学教授(産経新聞 4/4付 P7)佐野

☆皆さま投票に行きましょう。 江口

☆橋本会員財団卓話紹介有難うございました。欠席が多くてすみません。 安宅

~友愛 BOX~

¥ 39,000-

☆今日で43歳になりました。

歳をとっても最年少。

これからもよろしくお願ひします 花島

☆4/10に85歳になります。 及川

☆49回目の結婚記念日です。

来年はいよいよ金婚式です。 上代

☆妻にきれいなお花をありがとうございます 喜んでいました。 佐久間

☆途中退席申し訳ございません。

八千代中央 RC 小池様

☆鈴木様卓話楽しみです

杉・三井・池田・中島仁・渡邊・浅野正敏

中島貞好・山浦・山崎・朝戸・日下部

☆体調不良で2週休みました。皆さまにお力添え頂いた娘のそらが大学生になりました。

本当にありがとうございました。 稲山

☆本日は息子の入学式ですが、欠席して地元の中学校でPTA会長として挨拶をしてきました。 菊川

☆目の調子悪く1か月休みました。葉山

☆暖かくなってきました。 植村

☆お休みしました。齋藤昌宏・松戸

	会員 総数	出席 対象者	出席者	%
4 / 7	5 4	5 0	4 4	88.00

4月のロータリーレート 1ドル¥ 1 3 3 -